

農道橋の個別施設計画

令和 8 年 3 月

多治見市

個別施設計画（農道橋）

1. 対象施設

本市が管理する農道施設(農道橋)の総延長は、112.6mであり、総数は14橋である。
以下に対象施設一覧表を示す。

番号	橋梁名	所在地	橋梁形式	道路種別 (市道との接 合の有無)	橋長(m)	幅員(m)
1	萱原橋	多治見市北小木町萱原719番地先	RC床版橋	有	6.60	4.00
2	欠下橋	多治見市北小木町欠下204番地先	RC床版橋	無	5.30	2.00
3	宮下橋	多治見市北小木町宮下800番地先	プレテン床版橋	有	9.90	4.00
4	打越橋	多治見市北小木町打越860番地先	プレテン床版橋	無	6.80	3.20
5	神明洞橋	多治見市北小木町神明洞485-3番地先	RC床版橋	有	6.10	3.80
6	無名橋	大藪町深山1908-1番地先	RC床版橋	有	4.40	6.00
7	無名橋	多治見市大藪町深山1888-1番地先	RC床版橋	無	4.50	4.08
8	無名橋	多治見市大藪町山下1431-2番地先	RC床版橋	有	4.50	4.00
9	無名橋	多治見市大藪町山下1404-2番地先	RC床版橋	無	10.50	12.50
10	無名橋	多治見市大藪町八幡前1054番地先	プレテン床版橋	有	14.50	4.70
11	無名橋	多治見市大藪町和瀬祖居875番地先	プレテン床版橋	有	12.80	4.00
12	無名橋	多治見市大針町台87番地先	プレテン床版橋	有	9.50	4.00
13	無名橋	多治見市大針町五反田92-1番地先	プレテン床版橋	有	9.40	4.00
14	無名橋	多治見市大針町五反田96-1番地先	プレテン床版橋	有	7.80	4.00

2. 計画期間

中長期的な計画期間を30年と設定する。

3. 対策の優先順位の考え方

優先順位は、個別施設の状態(劣化・損傷の状況や要因等)の他、当該施設が果たしている役割、機能、利用状況、重要性等、対策を実施する際に考慮すべき事項を整理し設定する。

以下に優先順位の考え方を示す。

(1) 優先度の指標

橋梁の補修優先度を整理するための、評価指標を設定する。

評価項目については、「岐阜県 小規模橋梁修繕計画 平成31年3月 岐阜県県土整備部 道路維持課」の項目(健全度(損傷状況)、路線の重要性、交通量等)を基に策定する。

4. 対策の優先順位

対策は、損傷状況、路線の重要性、交通量等を考慮し優先順位を決定します。

【岐阜県 小規模橋梁修繕計画 平成31年3月 岐阜県県土整備部 道路維持課 P.6】

1) 健全度(損傷状況)に関する指標

損傷状況については、「岐阜県橋梁点検マニュアル 令和2年3月 岐阜県県土整備部道路維持課」より、主桁、横桁、床版等、下部構造、支承部、その他部材の6項目ごとに選定を行う。

(7) 部材単位の健全性の診断を行う場合の留意事項

- 多くの道路管理者でこれまで行ってきたとおり、部材単位で措置の必要性について診断しておくことは、その後の措置等の検討において有用なものである。
- 部材に変状があるとき、それが道路橋の構造安全性や耐久性に与える影響は、道路橋の部材構成、部材の種別や構造に応じて異なる。そこで、部材単位の健全性の診断を行うときには、部材種別を区分単位として考慮するとよい。表-1に、部材種別として少なくとも区分しておくことよいと考えられる例を示す。(付録1別紙1 定期点検項目の例を併せて参照するとよい)
- なお、表-1のその他については、道路橋、その安定等に影響を与える周辺地盤、附属物など、道路橋の性能や機能、並びに、その不全が利用者や第三者の安全に関連するものを全て含む概念である。

表-1 部材区分の例

上部構造			下部構造	支承部	その他
主桁	横桁	床版			

【岐阜県橋梁点検マニュアル (岐阜県県土整備部道路維持課) 令和2年3月 P.48】

2) 路線に関する指標

① 道路種別

本対象施設の路線は、すべて支線農道に位置すると想定される。
道路種別での評価ができないため、市道との接続の有無に着目する。市道との接続があるほうが橋の利用者が多く、優先度が高いと考えられる。

② 交通量に関する指標

交通量に関するデータがないため、橋長と幅員を考慮して選定することとする。

(2) 優先度指数の算定

選定項目について、優先度指数の選定方法を以下に示す。

また、優先度指数は、点数が低い程、優先度順位が高いことを示す。

1) 健全度(損傷状況)に関する優先度指数

上部構造(主桁、横桁、床版)、下部構造、支承、その他の4項目の健全度について優先度指数を設定する。上部構造については、最も健全度の悪い判定について優先度指数を設定する。各健全度の配点を以下に示す。

表-1 健全度に関する優先度指数

健全度	優先度指数
Ⅳ	—
Ⅲ	1
Ⅱ	2
Ⅰ	3

※健全度Ⅳは緊急対応が必要で、判定が出た時点で対応を行うため、配点を行わないものとする。)

2) 橋梁の重要度による優先度指数

橋梁の重要度は、3つの項目(道路種別、橋長、幅員)を評価項目に設定した。
各項目の優先度指数を以下に示す。

① 道路種別

道路種別による優先度指数は、市道との接合あり：1点、市道との接合なし2点とする。

②橋長

橋長が長い場合、損傷の進行による、補修費用が大きくなるため、工事を早期に行うことが望ましいと考えられる。

各橋長の配点を以下に示す。

表-2 橋長に関する優先度指数

橋長	優先度指数
10m以上	1
10m未満	2

③幅員

幅員に応じて、優先度指数を設定する。

表-3 幅員に関する優先度指数

幅員	優先度指数
10m以上	1
5m以上～10m未満	2
5m未満	3

以下に、優先度指数一覧表を示す。

表-4 優先度指数一覧表

項目		要素	評価点
健全度		IV	-
		III	1
		II	2
		I	3
重要度	道路種別 (市道との接合有無)	あり	1
		なし	2
	橋長	10m 以上	1
		10m 未満	2
	幅員	10m 以上	1
		5 以上～10m 未満	2
5m 未満		3	

5. 対策内容と実施時期

点検結果を基に行った対策工法の選定結果を以下に示す。
(実施時期については別表-3を参照)

表-5 補修工法一覧表(橋梁毎)

橋梁名		断面修復工	ひびわれ補修工	背面舗装補修工	舗装打換え工	橋面防水工	防護柵補修工	洗掘対策工
農道橋								
1	萱原橋	—	—	○	—	—	—	—
2	欠下橋	—	—	—	—	—	—	—
3	宮下橋	—	—	○	—	—	—	—
4	打越橋	—	—	—	—	—	—	—
5	神明洞橋	—	—	—	—	—	—	—
6	無名橋	—	—	—	—	—	—	—
7	無名橋	○	—	—	—	—	—	○
8	無名橋	○	—	○	—	—	○	—
9	無名橋	—	—	—	○	○	—	—
10	無名橋	—	—	—	○	○	○	—
11	無名橋	—	—	—	—	—	○	—
12	無名橋	—	—	—	—	—	—	—
13	無名橋	—	—	○	—	—	—	—
14	無名橋	—	○	—	○	○	—	—

(1) 萱原橋

萱原橋の各部材における、補修工法選定結果を以下に示す。

表-6 萱原橋 補修工法一覧表

損傷部位	損傷の種類	考えられる原因	対策区分		補修工法
			部材	部位	
その他					
防護柵	防食機能の劣化	経年劣化	I	II	経過観察
舗装	路面の凹凸	車両の繰返し通行	II		背面舗装補修工
	目地材の劣化	経年劣化	I		経過観察

(2) 欠下橋

欠下橋の各部材における、補修工法選定結果を以下に示す。

表-7 欠下橋 補修工法一覧表

損傷部位	損傷の種類	考えられる原因	対策区分		補修工法
			部材	部位	
上部構造					
床版	伝い水	雨水の水回り	I	I	経過観察
下部構造					
縦壁	剥離・鉄筋露出	かぶり不足	I	I	経過観察

(3) 宮下橋

宮下橋の各部材における、補修工法選定結果を以下に示す。

表-8 宮下橋 補修工法一覧表

損傷部位	損傷の種類	考えられる原因	対策区分		補修工法
			部材	部位	
その他					
地覆	地覆欠損	車両等の衝突	I	I	経過観察
舗装	路面の凹凸	経年劣化	II	II	背面舗装補修工

(4) 打越橋

打越橋の各部材における、補修工法選定結果を以下に示す。

表-9 打越橋 補修工法一覧表

損傷部位	損傷の種類	考えられる原因	対策区分		補修工法
			部材	部位	
上部構造					
床版	伝い水	雨水の水回り	I	I	経過観察
その他					
地覆	地覆損傷	車両等の衝突	I	I	経過観察
防護柵	腐食・防食機能の劣化	経年劣化	I		

(5) 神明洞橋

神明洞橋の各部材における、補修工法選定結果を以下に示す。

表-10 神明洞橋 補修項目一覧表

損傷部位	損傷の種類	考えられる原因	対策区分		補修工法
			部材	部位	
上部構造					
地覆	変形・欠損	車両等の衝突	I	I	経過観察
下部構造					
堅壁	剥離・鉄筋露出	かぶり不足	I	I	経過観察

(6) 無名橋

無名橋の各部材における、補修工法選定結果を以下に示す。

表-11 無名橋 補修項目一覧表

損傷部位	損傷の種類	考えられる原因	対策区分		補修工法
			部材	部位	
上部構造					
地覆	漏水・遊離石灰	施工不良	I	I	経過観察
その他					
防護柵	腐食	経年劣化	I	I	経過観察
	防食機能の劣化	経年劣化	I		
舗装	路面の凹凸	経年劣化	I		
	舗装の異常	車両の繰返し通行	I		

(7) 無名橋

無名橋の各部材における、補修工法選定結果を以下に示す。

表-12 無名橋 補修項目一覧表

損傷部位	損傷の種類	考えられる原因	健全度		補修工法
			部材	部位	
上部構造					
床版	剥離・鉄筋露出	かぶり不足	Ⅲ	Ⅲ	断面修復工
下部構造					
梁部	剥離・鉄筋露出	かぶり不足	Ⅲ	Ⅲ	断面修復工
	洗堀	経年劣化	Ⅲ		洗堀対策工
その他					
舗装	舗装欠損	経年劣化	I	I	経過観察
防護柵	腐食・防食機能の劣化	経年劣化	I		
地覆	地覆ひび割れ	車両の衝突	I		
	剥離	経年劣化	I		

(8) 無名橋

無名橋の各部材における、補修工法選定結果を以下に示す。

表-13 無名橋 補修項目一覧表

損傷部位	損傷の種類	考えられる原因	対策区分		補修工法
			部材	部位	
上部構造					
床版	浮き	かぶり不足	I	II	断面修復工
	剥離・鉄筋露出	かぶり不足	II		断面修復工
下部構造					
縦壁	剥離・鉄筋露出	かぶり不足	II	II	断面修復工
その他					
防護柵	腐食・防食機能の劣化	経年劣化	II	II	防護柵補修工
舗装	路面の凹凸	車両の繰返し通行	II		背面舗装補修工

(9) 無名橋

無名橋の各部材における、補修工法選定結果を以下に示す。

表-14 無名橋 補修項目一覧表

損傷部位	損傷の種類	考えられる原因	対策区分		補修工法
			部材	部位	
上部構造					
地覆	剥離・鉄筋露出	かぶり不足	I	I	経過観察
その他					
防護柵	腐食	経年劣化	I	I	経過観察
	ゆるみ・脱落	経年劣化	I		
	防食機能の劣化	経年劣化	I		
舗装	舗装の異常	車両の繰返し通行	II		舗装打換え工・ 橋面防水工

(10) 無名橋

無名橋の各部材における、補修工法選定結果を以下に示す。

表-15 無名橋 補修項目一覧表

損傷部位	損傷の種類	考えられる原因	対策区分		補修工法
			部材	部位	
上部構造					
主桁	ひびわれ	乾燥収縮	I	II	経過観察
	変形・欠損	かぶり不足	II		断面修復工
床版	漏水・遊離石灰	止水機能の低下	II		舗装打換え工 橋面防水工
下部構造					
縦壁	伝い水	伸縮部からの漏水	I	I	経過観察
	変形・欠損	経年劣化	I		
その他					
防護柵	腐食	経年劣化	II	II	防護柵補修工
	ゆるみ・脱落	経年劣化	II		
	防食機能の劣化	経年劣化	II		
舗装	舗装の異常	車両の繰返し通行	I		経過観察
	変形・欠損	車両の繰返し通行	I		

(11) 無名橋

無名橋の各部材における、補修工法選定結果を以下に示す。

表-16 無名橋 補修項目一覧表

損傷部位	損傷の種類	考えられる原因	対策区分		補修工法
			部位	部材	
上部構造					
主桁	異物混入	初期不良	I	I	経過観察
	変形・欠損	かぶり不足	I		
床版	漏水・遊離石灰	止水機能の低下	I		
下部構造					
縦壁	剥離・鉄筋露出	かぶり不足	I	I	経過観察
	伝い水	伸縮部からの漏水	I		
その他					
防護柵	腐食	経年劣化	II	II	防護柵補修工
	防食機能の劣化	経年劣化	II		
	変形・欠損	車両等の衝突	I		
舗装	舗装の異常	車両の繰返し通行	I		経過観察
	変形・欠損	車両の繰返し通行	I		

(12) 無名橋

無名橋の各部材における、補修工法選定結果を以下に示す。

表-17 無名橋 補修項目一覧表

損傷部位	損傷の種類	考えられる原因	対策区分		補修工法
			部位	部材	
上部構造					
主桁	変形・欠損	施工不良	I	I	経過観察
地覆	ひびわれ	かぶり不足	I		
下部構造					
縦壁	伝い水	伸縮部からの漏水	I	I	経過観察
その他					
防護柵	腐食	経年劣化	I	I	経過観察
	ゆるみ・脱落	経年劣化	I		
	防食機能の劣化	経年劣化	I		
舗装	舗装の異常	車両の繰返し通行	I		
	目地材の劣化	車両の繰返し通行	I		

(13) 無名橋

無名橋の各部材における、補修工法選定結果を以下に示す。

表-18 無名橋 補修工法一覧表

損傷部位	損傷の種類	考えられる原因	対策区分		補修工法
			部位	部材	
上部構造					
床版	漏水・遊離石灰	止水機能の低下	I	I	経過観察
下部構造					
堅壁	伝い水	伸縮部からの漏水	I	I	経過観察
その他					
防護柵	腐食	経年劣化	I	I	経過観察
	ゆるみ・脱落	経年劣化	I		
	防食機能の劣化	経年劣化	I		
舗装	舗装の異常	車両の繰返し通行	II		背面舗装補修工
	目地材の劣化	車両の繰返し通行	I	経過観察	

(14) 無名橋

無名橋の各部材における、補修工法選定結果を以下に示す。

表-19 無名橋 補修工法一覧表

損傷部位	損傷の種類	考えられる原因	対策区分		補修工法
			部位	部材	
上部構造					
主桁	ひびわれ	乾燥収縮	II	II	ひびわれ補修工
床版	漏水・遊離石灰	ひびわれからの漏水	II		舗装打換え工・ 橋面防水工
下部構造					
堅壁	ひびわれ	乾燥収縮	II	II	ひびわれ補修工
	剥離・鉄筋露出	かぶり不足	I		経過観察
	漏水・遊離石灰	伸縮部からの漏水	I		
その他					
防護柵	腐食	経年劣化	I	I	経過観察
	防食機能の劣化	経年劣化	I		
舗装	舗装の異常	車両の繰返し通行	I		
	目地材の劣化	車両の繰返し通行	I		

6. 工程表

優先順位	橋面積 (m ²)	補修費用(百万円) 総修繕計画より	更新費用(百万円) 更新半額より	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
				88年度	89年度	90年度	91年度	92年度	93年度	94年度	95年度	96年度	97年度
① 無名稱	18.45	4	8	4									
② 無名稱	53.2	6	23						6				
③ 無名稱	18	2	8							2			
④ 無名稱	31.2	2	13								3		
⑤ 無名稱	131.25	1	56									1	
⑥ 無名稱	51.2	1	22										1
⑦ 宮下橋	39.6	1	17										
⑧ 無名稱	37.6	1	16										
⑨ 豊原橋	26.4	1	11										
⑩ 無名稱	26.4	-	11										
⑪ 無名稱	38	-	16										
⑫ 神明洞橋	23.18	-	10										
⑬ 打越橋	21.76	-	9										
⑭ 穴下橋	10.6	-	5										

50年(推定)

